

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093200113		
法人名	株式会社 裕生堂		
事業所名	陽だまり倶楽部 東大利	(ユニット名)
所在地	大野城市東大利3丁目11-28		
自己評価作成日	平成30年11月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階		
訪問調査日	平成30年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前は、毎月食事会やお茶会等を実施していましたが、入居者さんの状況に合わせて、近場の散歩を実施しています。また、長く入居されている方が増えてきたため、ご本人の体調管理を重点的に行っています。その為、入居者さんの主治医との密な連絡・報告を実施し、安心して過ごせるように努力しています。また、個々の能力を見ながら、役割分担や余暇活動を行ってもらい、入居者主体のケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の少し入り込んだところに位置し、静かな環境にある。法人は、グループホーム、向かいに薬局、隣に有料老人ホームの3事業を運営している。グループホームは建物の2階にあり、1階は法人外の診療所とデイサービスになっている。特に1階にかかりつけ医がいることは利用者も家族も安心があり、心強い点である。職員の人員配置は充足している。異動や退職があり厳しいところもあったが、改善に向けて動いている。管理者は意思疎通・コミュニケーションを重視し、管理者と職員は同じ目線で一丸となって理念に沿ってケアに取り組んでいる。職員の笑顔が利用者の笑顔につながっていき、地域のグループホームになっていくことが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の理念を踏まえ、各事業所にて個別の目標を設定し、カンファレンス等にて確認を行い、ケアに繋がるようにしている。	3年前に管理者が作った理念は職員に浸透しており、更に実践につなげるよう努めている。法人理念には地域との交流が謳われているが、事業所の理念にはない。	グループホームは地域密着の事業であることを踏まえ、事業所の理念を現在の職員全員で見直す機会を持つことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校や保育園との定期的な交流会を実施しています。また、地域行事への参加が、入居者の状況にて、全員の参加は難しくはなっているが、可能な限り参加をしています。	ボランティアや小学生の訪問がある。小学3年生は交流会として、小学4年生は福祉の授業として、認知症についての話もしている。幅広い世代との交流の機会をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービス事業所の意見交換会の参加や、市等主催の地域交流会の参加を行い、地域活動を実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、事業所での出来事、利用者の状況や、事業所の取り組みについて報告を行い、それらに対しての意見を踏まえ、サービス向上に取り組んでいます。	介護サービス相談員、福祉委員、地域包括支援センター、市長寿支援課、小学校、公民館等からの出席者で年6回開催している。事業所からの報告、市の実地指導の結果、身体拘束防止、夜間緊急搬送等、事業所や一般的な課題等の取り組みについて話したり、質問や意見を受けてサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業の意見交換会や連絡会などに参加し、グループホーム運営に関する質問や相談を行っています。	介護報酬改定に伴う新たな点や利用者の処遇に関して疑問がある時は尋ね、助言を受けたり確認をしている。市からの研修や他事業所との会合等の案内を受けて参加しており、市との関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より、身体拘束は行わないようにしています。	法人内の3事業所で身体拘束防止委員会を作って検討を行い、各事業所に持ち帰り、職員に伝達している。特に不適切な言葉で対応しないよう留意しケアを行っている。法人内の事業所で外部講師の研修がある時は参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回、虐待防止委員会を開催し、スタッフに何気ない行動が虐待につながる可能性があるなどの、認識と意識向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、生活保護の方が入居されており、日常生活自立支援事業を使用されています。その為、それに関する資料を用意し、スタッフがいつでも閲覧できるようにしています。	家族から成年後見制度について聞かれ管理者が答えている。権利擁護に関するパンフレットはあるが保管しており、職員や家族の目に触れることがない。	職員や家族・利用者への入れ替わりがある。職員の研修や家族・利用者への、権利擁護に関する制度の理解と周知のあり方について、検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には納得できるまで、丁寧に説明を行った上で、契約を結んでいます。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回の介護サービス相談員の訪問受け入れや苦情相談のポスターを掲示し、ご家族からの意見等を施設運営に反映させています。	利用者家族の訪問は多く、中には週1回や毎日の家族もあり、その都度話せており意見を吸い上げ検討している。職員の交代によって名前と顔が繋がらないため顔写真を貼って欲しいという要望が現在あるので対応をしていく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や職員は今ある問題点を一緒に共有し、それについて、管理者会議にて議題として持ち込むようにしています。	管理者と職員間に話しやすい雰囲気がある。管理者は意思疎通・コミュニケーションの大切さを自覚しており、職員からの意見や提案を受け入れている。実績として休憩時間の在り方について意見を受け入れて働きやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月1回行われる管理者会議にて管理者より職員の取り組みや努力・実績などの把握を行っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、年齢・性別関係なく人柄や熱意などをもって判断材料としています。また、職員の個人個人の得意分野を活かした働き方を心掛けています。	法人で年齢や性別に関係なく採用し、事業所では理念に沿って、職員みんな同じ目線で一丸となってケアに取り組む必要性を理解できるように努めている。勤務では職員の得意なことを活かしたり、勤務外では家庭の事や趣味も充実できるように配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営理念にあるように、人権を尊重したケアを行っています。また、研修等に参加したスタッフに、他のスタッフに伝達できるよう、報告会を設けています。	年1～2回外部研修に参加する中で人権について受講し、事業所内で伝達研修をしている。事業所の研修年間計画の中にも人権についての研修を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を受ける機会を設けている。職員間で教え合いながら、職員のスキルアップに努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型サービス意見交換会などに参加し、同系サービス事業者との情報交換を積極的に行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問、面談を行い、本人やご家族からいろいろとお話を聞くことで情報収集を行い、サービスに対する不安や要望などの理解に努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス実施に伴う、家族の不安や要望をしっかりと聴き取り、理解することで、信頼関係構築のための努力をしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からのニーズを見極め最も適したサービス提供に努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに一人の人間として尊重し支えながら生活をしている。様々な場面で入居者、職員が楽しく生活できる関係づくりに努めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに情報交換を行い、施設行事に出来るだけ参加を呼びかけ、協力を得ながら、家族と同じ思いでご本人を支えていく関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の人間関係を確認し、手紙や電話等のやり取りの支援を行っています。	事業所では特別なことはしていないが、本人が友人や家族に電話をかけることを望まれるときは、電話で話ができるよう支援している。また、家族に協力をしてもらい、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人として、合う合わないは誰しもが持っているものなので、入居者同士の人間関係を把握し、トラブルに至らないようにしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族が、来設され、近況報告を受けるケースがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、入居者とコミュニケーションをとり、本人の状態や気持ちの把握に努めている。ご家族からの情報もしっかりと受け止め、ケアに反映しています。	在宅時の生活歴などの情報を得て、日々の関わりの中で会話や態度、表情などから思いや意向をくみ取っている。把握が困難な場合には、家族から情報を得たりして本人本位に検討している。思いや意向はケアプランに反映されたり、職員全員で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談にて、ご本人の今までの暮らしをこちらが把握する事の重要性を説明し、納得の上でご本人の生活歴の提出をお願いしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が日常生活を送る中で、常に心身の状態や、個人の能力の把握に努め、ミーティングや連絡ノートにて情報を共有しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人からの情報や、主治医への相談を行い、個々のニーズに応じた介護計画を作成している。状況に応じて見直しを行っています。	毎朝の申し送り時に利用者の状態を報告し、記録物でも職員間の情報共有を図っている。本人・家族の意向を踏まえ、往診時にかかりつけ医からも指示や情報を得て、6ヶ月毎にケア会議に於いて全職員で検討している。利用者の状況に変化があった場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態を細やかに記録し、その事を職員全員で情報共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや、入院時の衣類洗濯、外出の付き添い等の支援など、本人・家族の状況や要望に応じて柔軟に対応しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護サービス相談員の訪問の受け入れ、公民館行事への参加等、運営推進会議を通じて地域の方々に協力を得ています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関に、月に2回の定期訪問診療を行っている。それ以外に、本人の体調を見ながら、協力医療機関に相談や受診を行い、また、家族からの要望にて、その都度相談、受診を行い、体調管理に努めています。	本人・家族の了解を得て、利用者全員が事業所の複数の協力医をかかりつけ医とし、月2回の定期や臨時訪問診療を受けている。他科受診については、家族が同行し受診しているが、家族が同行できない場合には職員が代行している。受診結果については、電話や訪問時に家族と情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と連携をとり、入居者の体調管理に努め、適切に看護を受けられるよう支援しています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、こまめに面会を行い、本人の様子等の確認を行い、早期に退院できるよう、入院先との情報交換を密に行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応の指針を定め、本人や家族に対し入居当初から、事業所が対応し得る最大限のケアについて説明を行っている。看取りについては、主治医との連携をとりながら、支援をしていく体制を整えています。	利用開始時に「看取りに関する指針」に基づいて説明を行い、本人・家族の意思を確認している。重度化した場合や看取りについて、事業所として現段階では対応可能であることを伝えてはいるが、常駐の看護師が不在なことや訪問看護との連携も無い為、最終的な判断はかかりつけ医に委ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にどのような対応をするかのマニュアルを作成し、慌てずに冷静に対応できるよう全職員に熟知してもらっています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年2回に防火訓練と年2回に災害訓練を実施し、避難経路の確認や注意事項を確認している。また、同一敷地内の施設や薬局に応援要請を行っています。	今年度は6月に夜間の火災を想定した総合訓練を利用者、職員、同一敷地内の薬局から2名の参加のもと実施している。9月に消防署の立入検査があり、事業所と同一建物内にある診療所、他事業所と一緒に訓練を行うようにとの指示を受け、来年1月に地震・風水害を想定した訓練を実施予定である。水や食料品、おむつなど2日～1週間分程度の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の性格や精神状態を把握し、本人の尊厳を重視した声掛けや対応を行っている。また、職員間にて、言動や行動を助言しながら関わるように努めています。	言葉や語調にも配慮しながら日々ケアを行っている。不適切な対応があった場合には、職員間でも注意し合ったり、主任や管理者からアドバイスをしている。オムツ交換時にはバスタオルを掛け羞恥心への配慮をしたり、個人の記録物は事務室内にある鍵付きキャビネットに保管したりして外部の人から見られないようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で選ぶことが出来ない状況がある場合は、一度説明や目で見て確認してもらうことで、選択ができるように配慮しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人がしたいことを必ず確認をとり、それに則した支援を行っています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけを行う際には、いつもとは違った衣類で出かけてもらうなどの支援を行っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を職員と一緒にいき、時には会話をを行うなど、自然な食事場面の提供を行っている。食事準備や後片付けを一緒にする機会は現時点では難しい状況にあります。	調理師資格を持つ職員が主に調理を担当している。主食、汁物、おやつ以外は配食サービスを利用し、事業所で温め、盛りつけをしている。利用者の状態に応じてカットやミキサー食にしたり、居室での食事希望に応じたりしている。食卓には職員が一人利用者と同じ食事をとり、他の職員は必要に応じて介助や声掛けをしている。下膳する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の食事量の記録や、体重測定を月に1回行い、摂取状況や体重の増減を全職員で情報の共有を行っています。また、水分補給は、食事や間食時以外にも、起床時や入浴後などに適時飲み物を提供しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者の状況に合わせて、声掛けや介助を行っています。また、個々の希望により訪問デンタルを受けて頂いています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、個々の排泄パターンの把握を行っています。声掛けトイレ誘導にて排泄の自立を支援を行っています。一方で、立位や座位が難しい方については、2名にてトイレ介助にて排泄の支援を行っています。	トイレでの排泄することを大切にしている。安眠できるように夜間は吸収量の多いパットを使用したり、水分補給に配慮しながら、排泄がスムーズにいくように支援している。トイレ内はゆったりとして使い易く、数名の利用者は自力でトイレに行くことができている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に繊維質や乳製品の物を取り入れ、こまめに水分補給を行っています。散歩や体操を日課に取り入れ、体を動かす機会を設けています。腹部マッサージや主治医の協力を得て、個々に応じた支援を行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るように準備はしているものの、2名対応が必要な方や、拒否をされる方もあり、現時点では毎日の入浴が難しい状況ではありますが、基本1日おきの入浴として、失禁による汚染時にも、すぐに対応できるように準備しています。	毎日入浴できるように準備ができており、週2回程のペースで入浴している。午後入浴やゆったりと浸りたい場合には意向を尊重している。寛いだ雰囲気の中で歌を唄ったり、よく話をすることで気持ちが落ち着いたりしている。入浴を拒まれる場合には、日にちを変更したり様子を見て声掛けをしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にしっかりと入眠して頂けるよう、体調不良以外、基本、日中は活動して頂くようにしています。夜間帯では、空調などの環境を整え、安眠できるように配慮しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体温表に現在服薬中の薬を記載して、全職員が薬の効用と副作用等の把握に努めています。臨時薬等、変更時には、速やかに全職員に情報の共有を行っています。また、経営母体である調剤薬局の薬剤師からの支援を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や能力に応じて、役割や趣味を把握し、掃除や洗濯物たたみ、歌や学習等、生活にメリハリがつくように、また散歩などを取り入れ、気分転換を図っています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、長時間となる外出が難しい入居者が増えているので、気分転換の為に、施設館外周囲の散歩を交代で実施することでとどめています。	天気の良い日には車いすの利用者も一緒に事業所の周辺を散歩している。利用者が家族と一緒に自宅や外食に出かける際には準備を支援している。4月には桜を見に出かけていたが、職員の異動・退職などで十分な外出支援に至っていない状況にある。事業所内部が回廊となっており、利用者と一緒に歩くなどしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお小遣いとして施設で管理することを説明し、ご家族は了承されています。入居者より所持したいとの申し出があれば、ご家族から同意を得ています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話は、電話子機を使って、居室にて使用してもらっています。手紙の場合、返信のお手伝いをさせていただいています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、温度、湿度確認を行っています。日中多く過ごされているリビングは日当たりも良く、室温調整も行っている。廊下に行事や出来事の写真を掲示し、明るく居心地の良い空間づくりに努めています。	玄関の壁には利用者の手作り作品が飾られ、木の温かみのある室内は適度な明るさがあり、ゆったりとしている。リビングには寛げるようにソファを配置したり、加湿器を置いたりして、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が気持ちよく過ごせるよう気配りを行っている。入居者同士のトラブルがないかも心掛けています。テレビを観たり、ソファーにてうたた寝したり、テーブル席で本を読んだり思い思いに過ごせるよう支援しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や、日頃から、ご家族からご本人のなじみの物を持つことをお願いしています。また、必要のないもの等、調整しながら居心地の良い居室になるよう心掛けています。	居室には馴染みの筆筒や鏡台、椅子などが配置されている。壁には利用者や家族の手作り作品、カレンダーや家族写真などを貼ったり、好みのドライフラワーの置物などで飾りつけたりして、一人ずつにあった居室となる工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段・浴室に手すりを設置。床には転倒などによる衝撃を最小限にするために緩衝材を使用しています。また階段入口部分に、開け閉め自由な柵を設け、階段からの転落防止を行っています。		